

はじめに

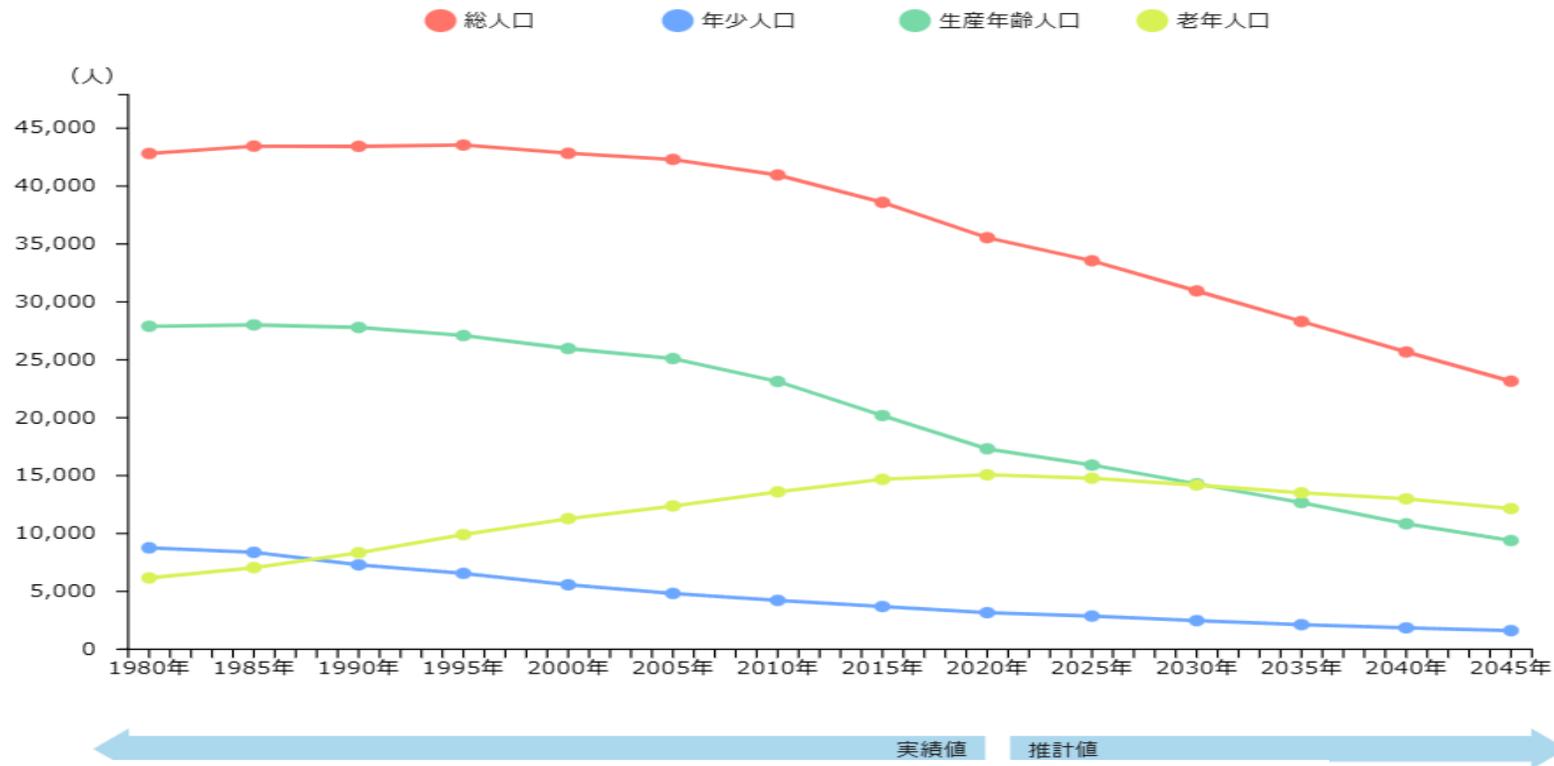
いすみ市において真に稼げる産業や事業者に対し、限られたマンパワーや政策資源を集中投資し、効率的な経済活性化を目指すため、経営指導員等が「RESAS」（地域経済分析システム）を活用した地域の経済動向分析を行いました。

具体的には、地域経済循環マップ・生産分析において、何で稼いでいるか等を分析、「まちづくりマップ・From to 分析」において人の動き等を分析するなど様々な分析を総合的に活用し、事業計画策定支援等に反映していきます。

1. 人口

①人口の推移

- ・ 2020年のいすみ市の総人口は、35,544人である。10年前となる2010年の40,962人と比較して13%程度減少している。今後は減少が続く見込みである。
- ・ 年齢別の傾向を見ると、老年人口は、1980年6,161人と比較し、2020年は12,151人であり1.97倍増加している。また、生産年齢人口は、1980年27,894人と比較し、2020年は9,738人であり、65.1%減少している。



【出典】

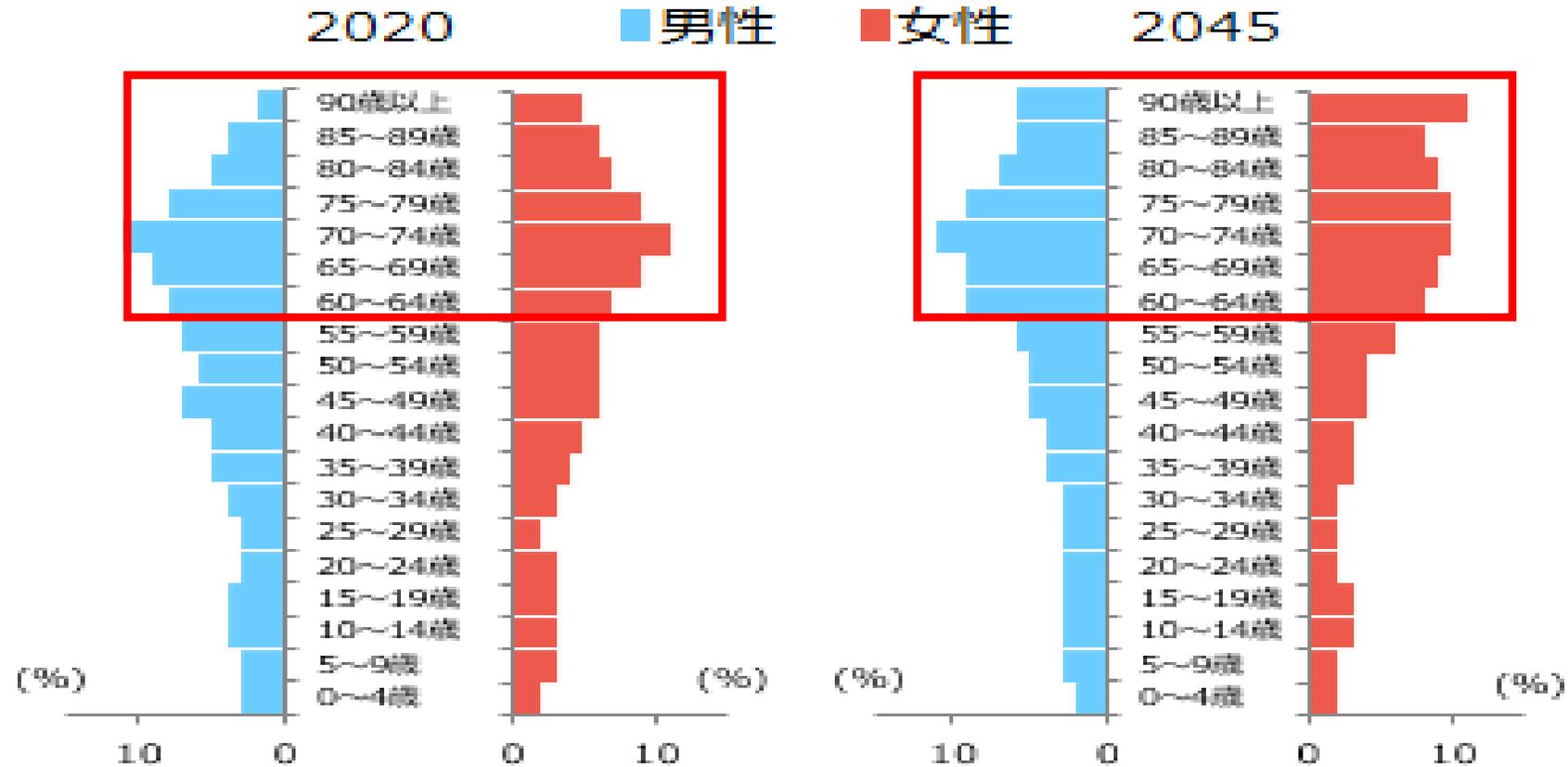
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

②人口ピラミッド

・男女別・5歳階級別にみる人口ピラミッドでは、将来の高年齢層が男女ともに増加し、生産年齢人口（15～64歳）が減少する見込みである。

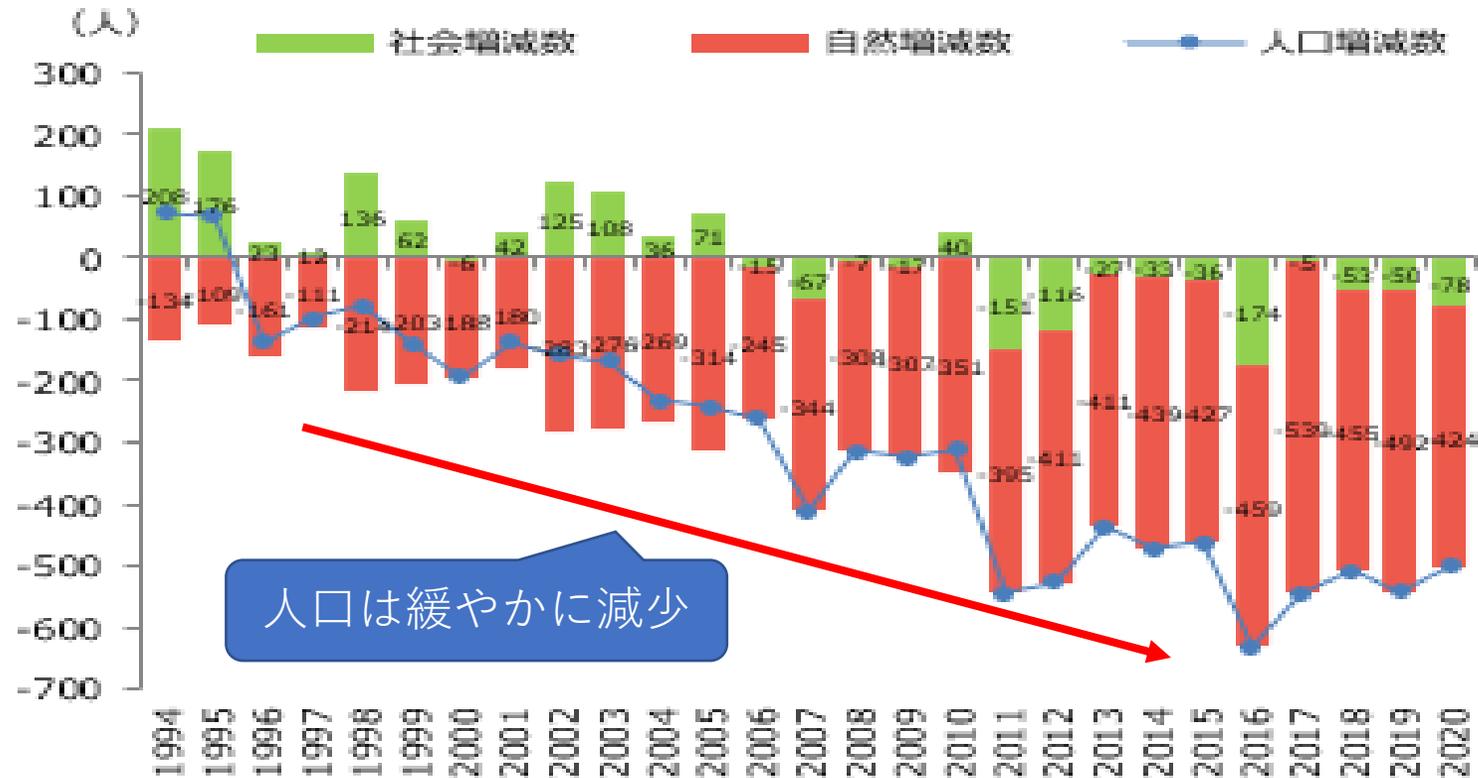


【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】 2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

③自然増減・社会増減の推移

・いすみ市の人口は減少傾向であり、その理由として出生・死亡による自然増減は、1994年以降、減少している。
 また、転入・転出による社会増減も、2011年以降減少している。自然増減と社会増減の両方が減少傾向であり青いラインで示す人口増減数は年々減少してきている。

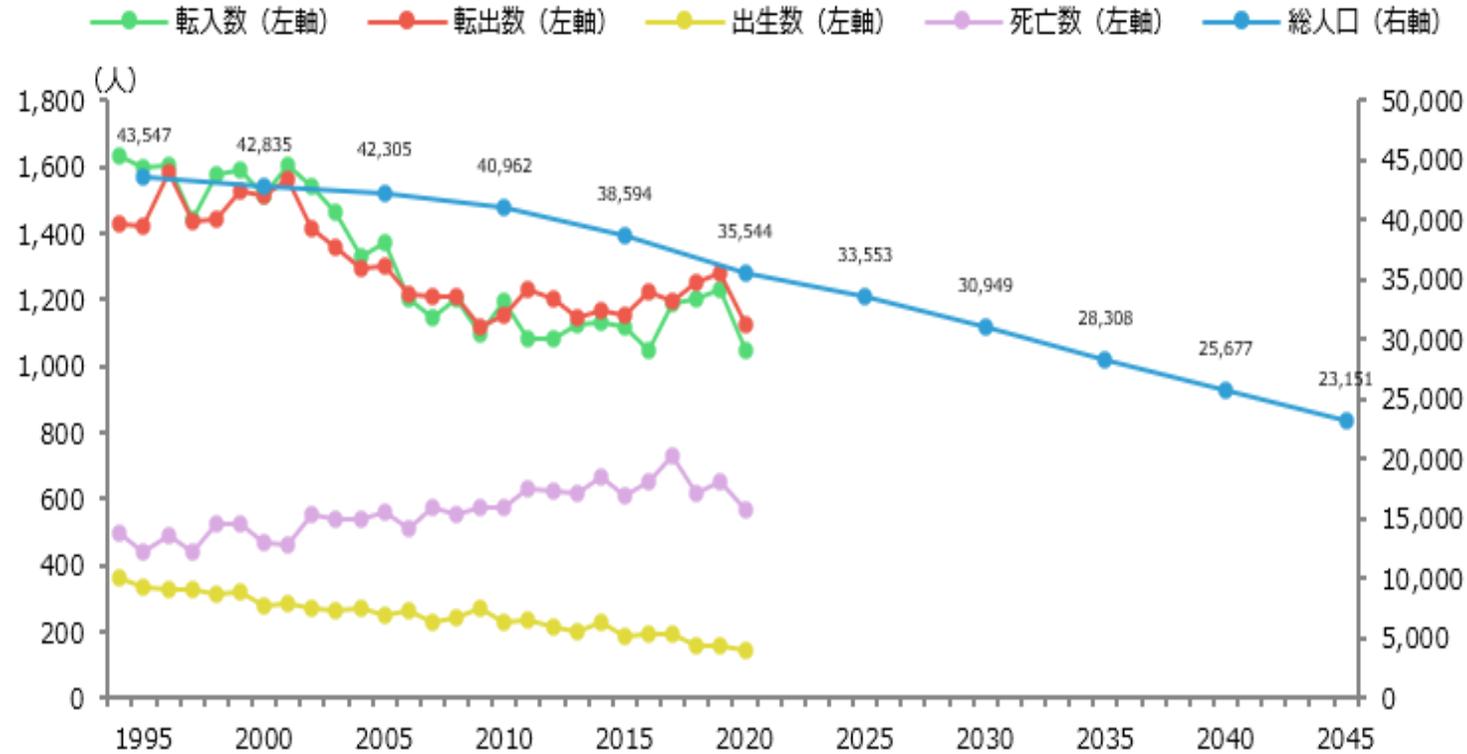


【出典】総務省「住民基本台帳に基く人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ、2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

④ 出生数・死亡数 / 転入数・転出数

・総人口の増減要因である、出生数・死亡数、転入数・転出数の推移を示しており、自然増減を示す死亡数が増加傾向、出生数が減少傾向である。
また、社会増減を示す転入数・転出数は、やはり減少傾向であり、総人口は減少の一途をたどっている。

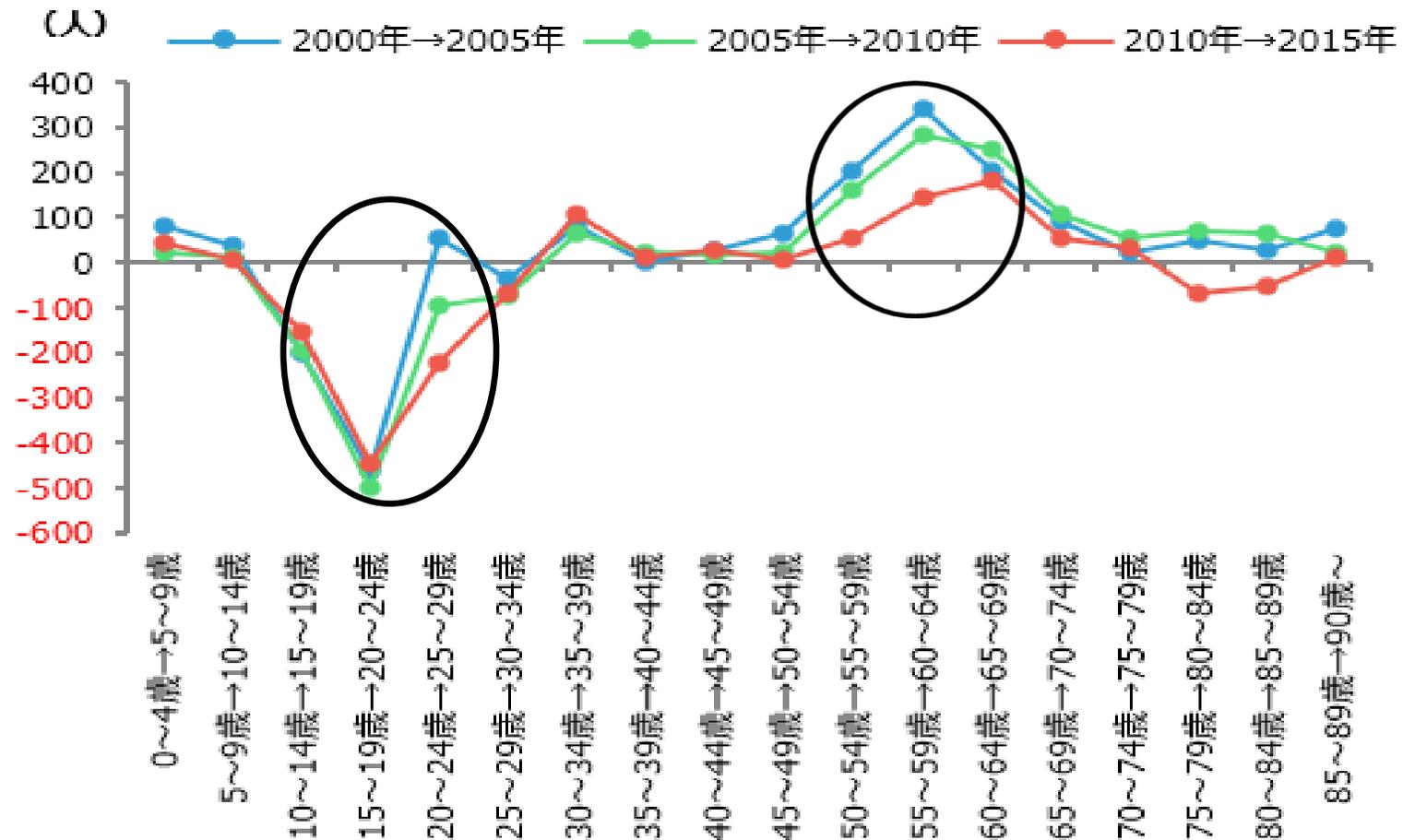


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

⑤ 年齢階級別純移動数の時系列推移

・年齢階級別の社会増減数の状況を見ると15歳から24歳の転出が多く、55歳から69歳の高年齢層の転入が多い傾向にある。10年前と比較すると若年層の転出と高年齢層の転入年齢はより戻りづらくなっている。

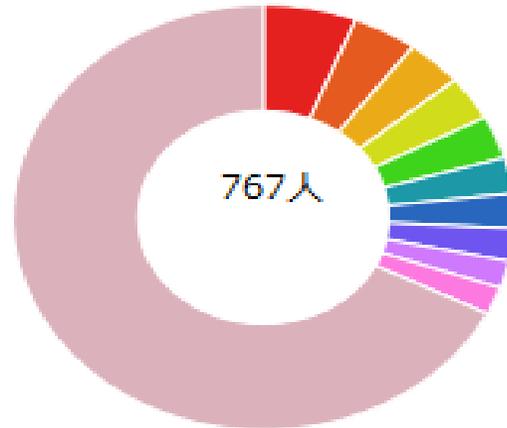


【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

⑥転入数・転出数の上位地域

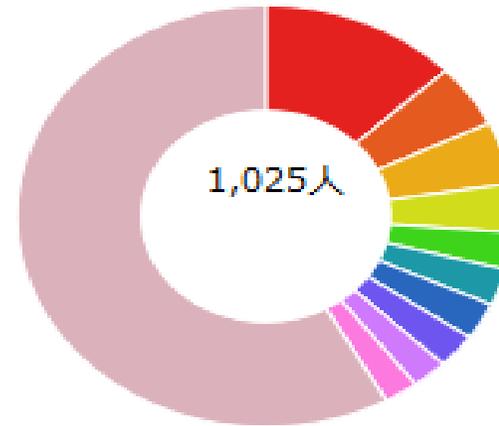
・転入数767人と転出数1,025人を比較し、転出は転入の1.3倍となっている。千葉県内の近隣地域からの転入・転出が多く、茂原市が上位である。船橋市、千葉中央区からの転入・転出が10位以内に入っている。

転入数内訳（2020年）



- 1位 千葉県茂原市 (46人)
- 2位 千葉県船橋市 (32人)
- 3位 千葉県一宮町 (28人)
- 4位 千葉県市原市 (26人)
- 5位 千葉県御宿町 (25人)
- 6位 東京都江戸川区 (21人)
- 7位 千葉県千葉市中央区 (20人)
- 8位 千葉県市川市 (19人)
- 9位 千葉県千葉市緑区 (16人)
- 10位 千葉県千葉市稲毛区 (16人)
- その他 (518人)

転出数内訳（2020年）



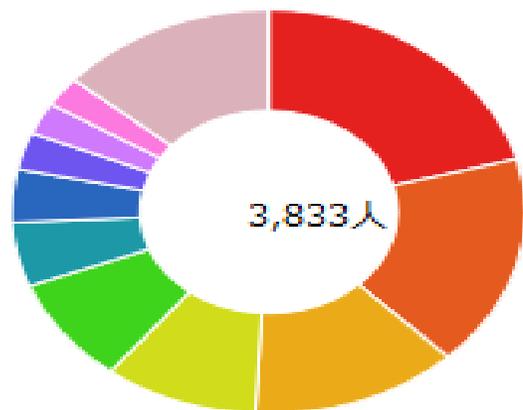
- 1位 千葉県茂原市 (132人)
- 2位 千葉県一宮町 (50人)
- 3位 千葉県千葉市中央区 (49人)
- 4位 千葉県船橋市 (38人)
- 5位 千葉県長生村 (29人)
- 6位 千葉県睦沢町 (29人)
- 7位 千葉県千葉市緑区 (29人)
- 8位 千葉県市原市 (27人)
- 9位 千葉県御宿町 (24人)
- 10位 千葉県市川市 (23人)
- その他 (595人)

【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

⑦流入者数・流出者数の上位地域

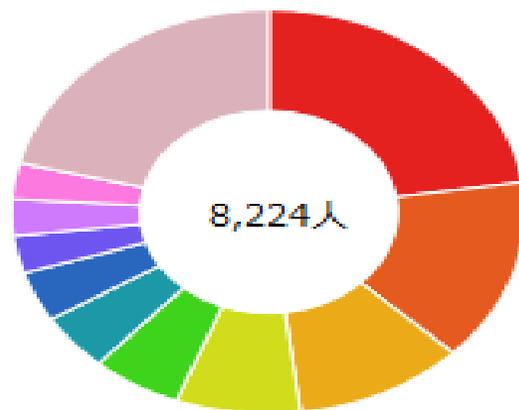
・流入者3,833人と流出者8,224人を比較し圧倒的に流出者が多い。流入・流出の上位は茂原市であり、流出は茂原市に次いで千葉市、大多喜町であり通勤等により流出している。

流入者数内訳（2015年）



- 1位 千葉県茂原市 (797人)
- 2位 千葉県勝浦市 (649人)
- 3位 千葉県御宿町 (503人)
- 4位 千葉県大多喜町 (372人)
- 5位 千葉県一宮町 (325人)
- 6位 千葉県長生村 (197人)
- 7位 千葉県睦沢町 (163人)
- 8位 千葉県千葉市 (114人)
- 9位 千葉県鴨川市 (98人)
- 10位 千葉県市原市 (92人)
- その他(523人)

流出者数内訳（2015年）

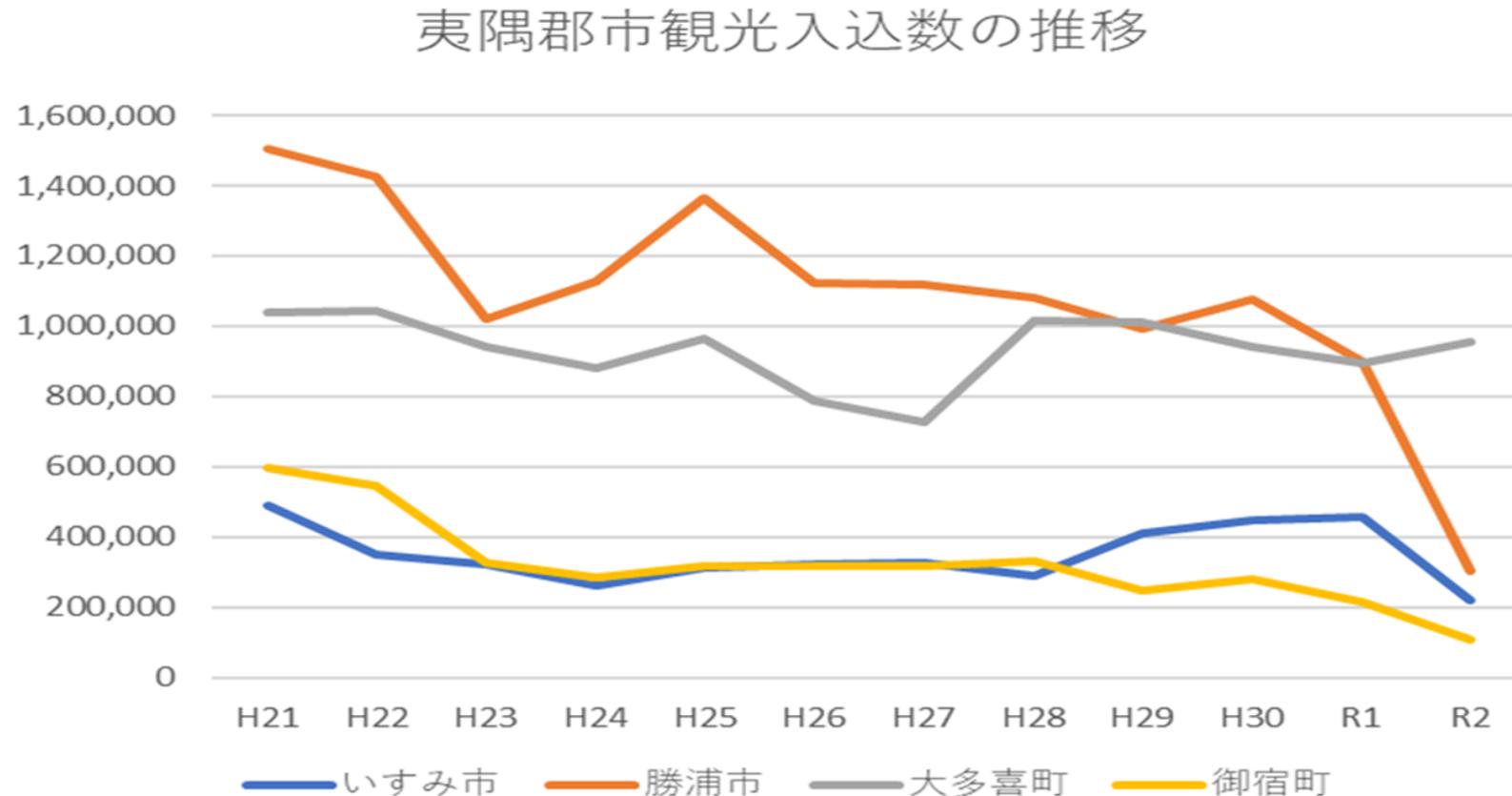


- 1位 千葉県茂原市 (1,862人)
- 2位 千葉県千葉市 (1,204人)
- 3位 千葉県大多喜町 (882人)
- 4位 千葉県勝浦市 (647人)
- 5位 千葉県一宮町 (465人)
- 6位 千葉県市原市 (377人)
- 7位 千葉県御宿町 (331人)
- 8位 千葉県長南町 (245人)
- 9位 千葉県睦沢町 (240人)
- 10位 千葉県長生村 (237人)
- その他(1,734人)

【出典】総務省「国勢調査」

⑨夷隅郡市観光入込数の推移

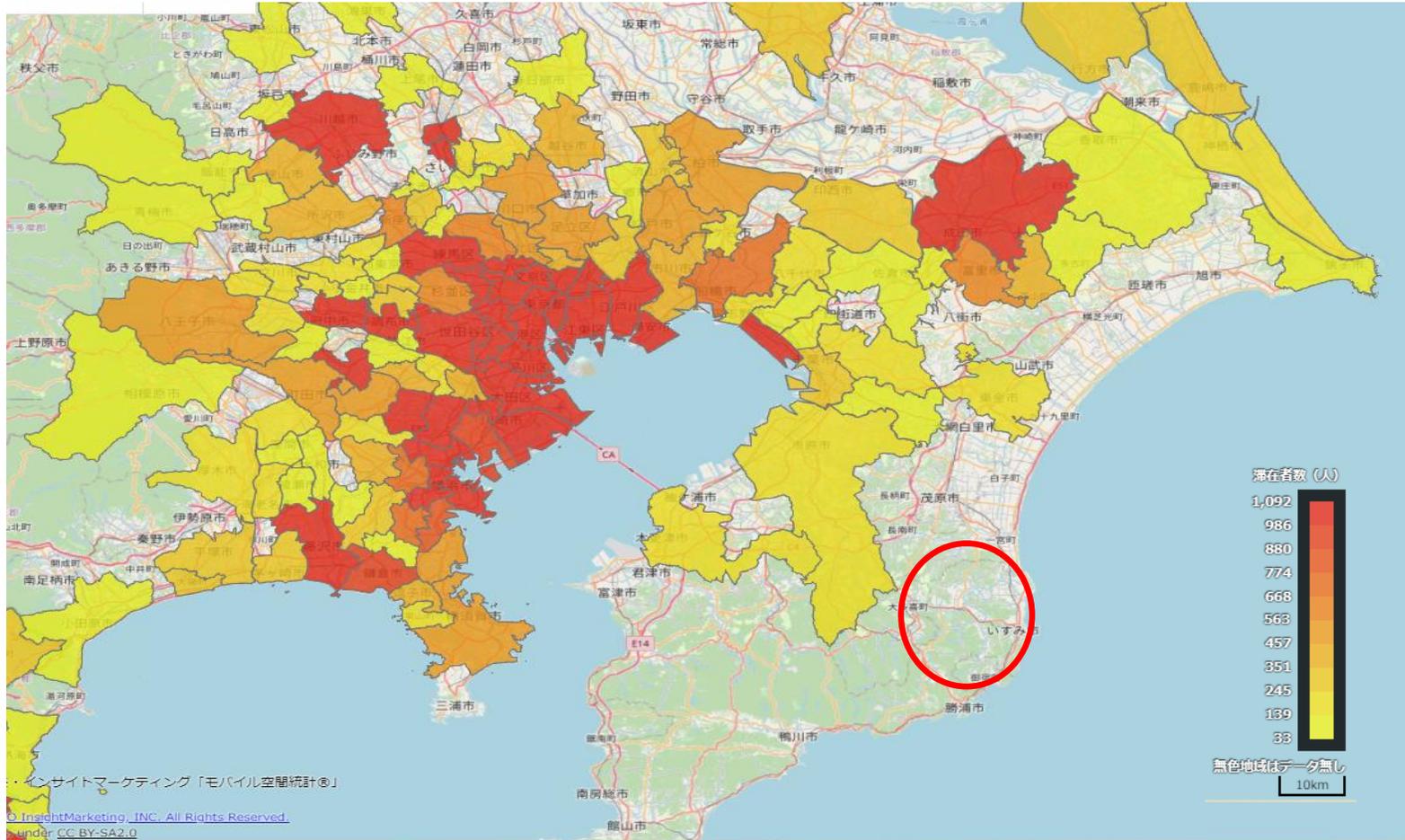
・夷隅郡市の観光入込数を比較したグラフである。いすみ市は、勝浦市や大多喜町と比較して、観光入込数が比較的少ない。いすみ市の入込数は、平成28年以降、増加傾向であるが、令和2年は、令和1年に比べると大幅に減少している。



出典：千葉県観光入込調査報告書

⑩外国人の滞在分析

・外国人の滞在状況について、2021年8月、昼間（10：00～18：00）のヒートマップを見ると、「いすみ市」は、交通インフラや地理的な要因もあり、結果的に外国人観光客の呼び込み施策が打てていない状況である。



出典：RESAS（地域経済分析システム）

⑪滞在人口の月別推移

・いすみ市の滞在人口の月別推移をみると、5月と8月に滞在人口が増加しており、平日よりも休日の方が1万人程度増加している。

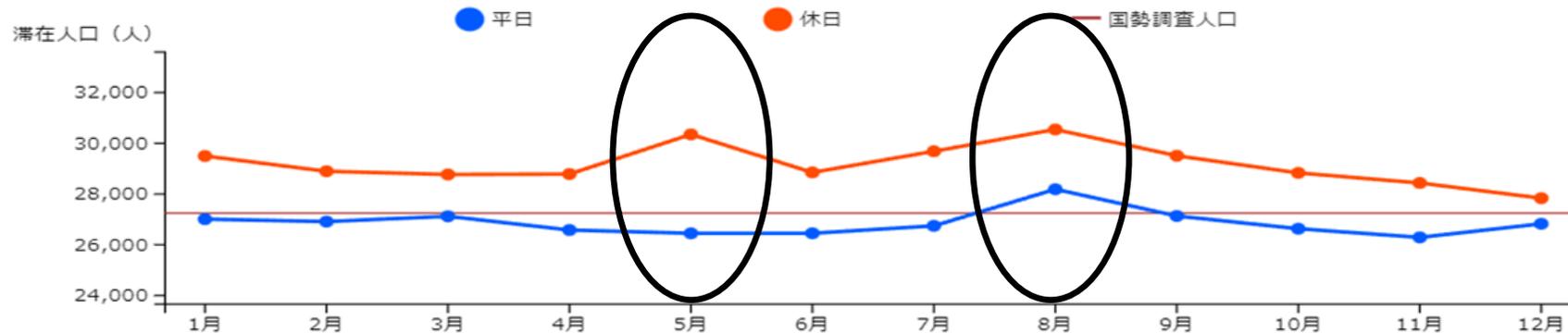
滞在人口の月別推移

千葉県いすみ市

2021年 14時

総数 総数（15歳以上80歳未満）

（国勢調査人口：27,250人）



【出典】

株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
総務省「国勢調査」

【注記】

滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。

滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

携帯電話の運用データについては国籍に関わらず契約者のデータが使用されていることから、

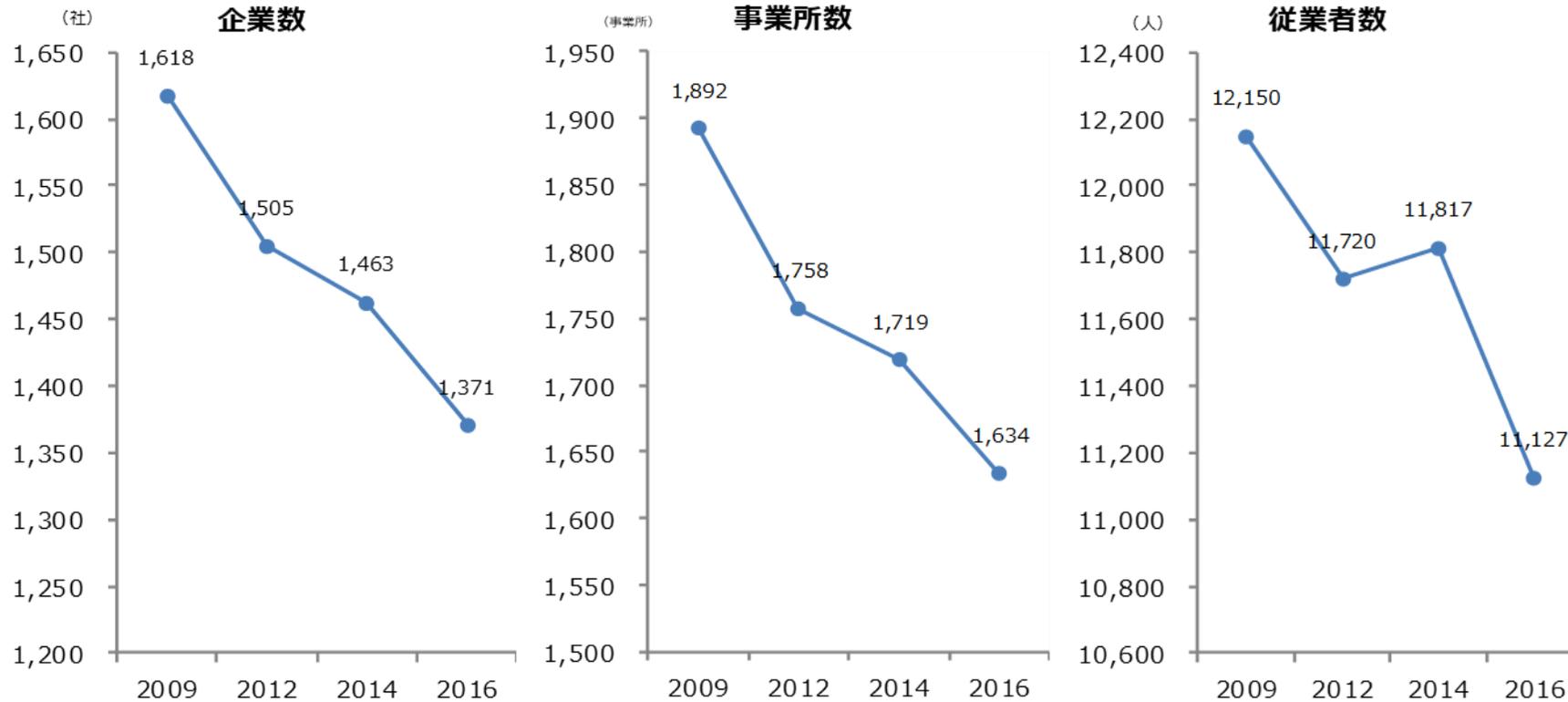
滞在人口の算出には国内に居住する外国人も推計として含まれている。

ここでいう「国勢調査人口」とは、表示対象に指定した性別・年代の人口であり、当該自治体における総人口ではない。

2. 産業

①企業数・事業所数・従業者数の推移

・いすみ市の企業数、事業所数、従業者数は、いずれも減少傾向である。企業数は、2009年から2016年にかけて15.2%減少している。

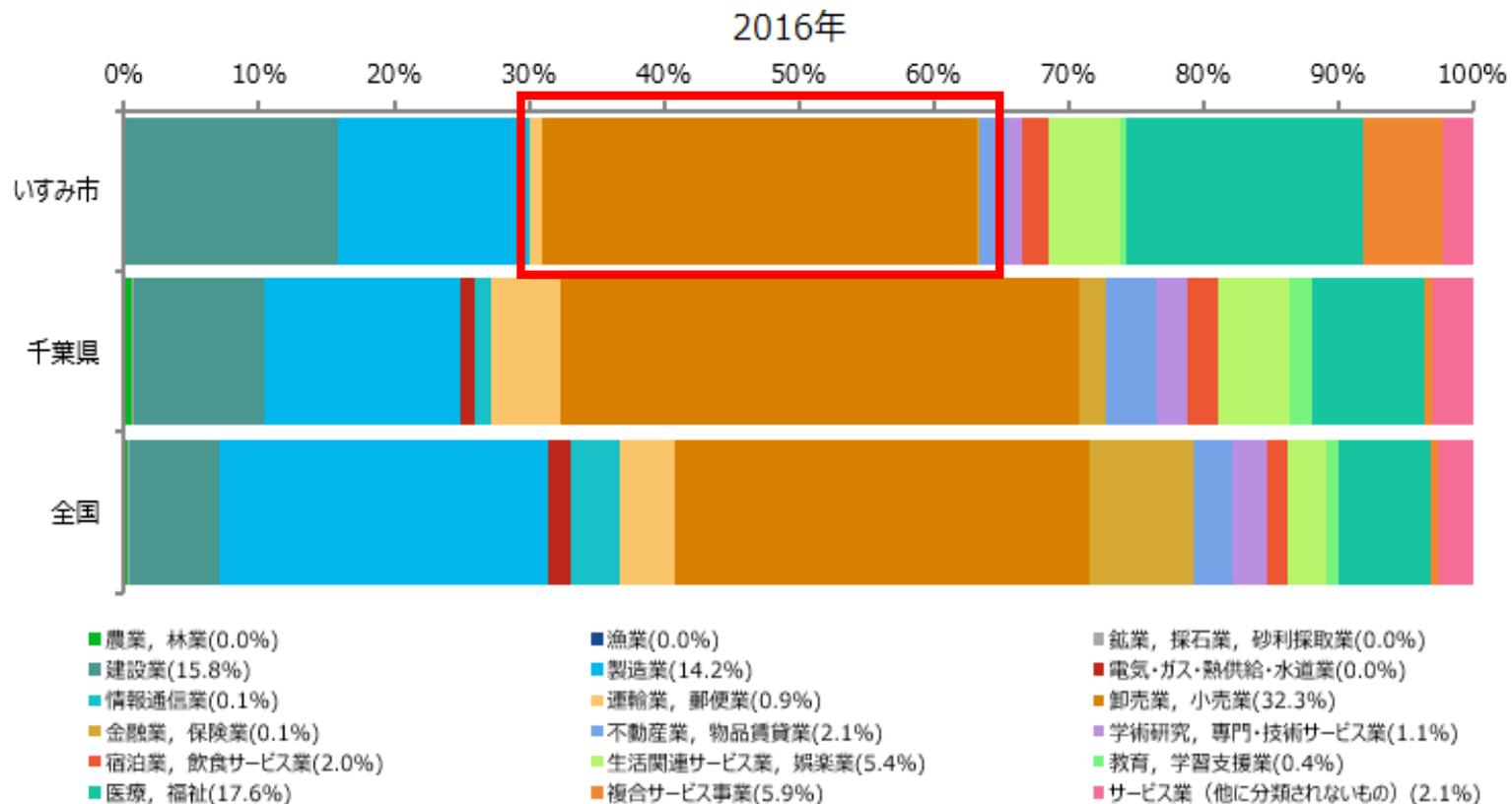


【出典】 総務省「経済センサス－基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

【注記】 企業数については、会社数と個人事業所を合算した数値。従業者数は事業所単位の数値。

②産業大分類別に見た売上高（企業単位）の構成比

・売上高（企業単位）での産業大分類別の構成比を見るといすみ市は、卸売業、小売業（32.3%）、次いで医療福祉（17.6%）、建設業（15.8%）、製造業（14.2%）である。建設業と医療福祉が他地域と比較して多い。

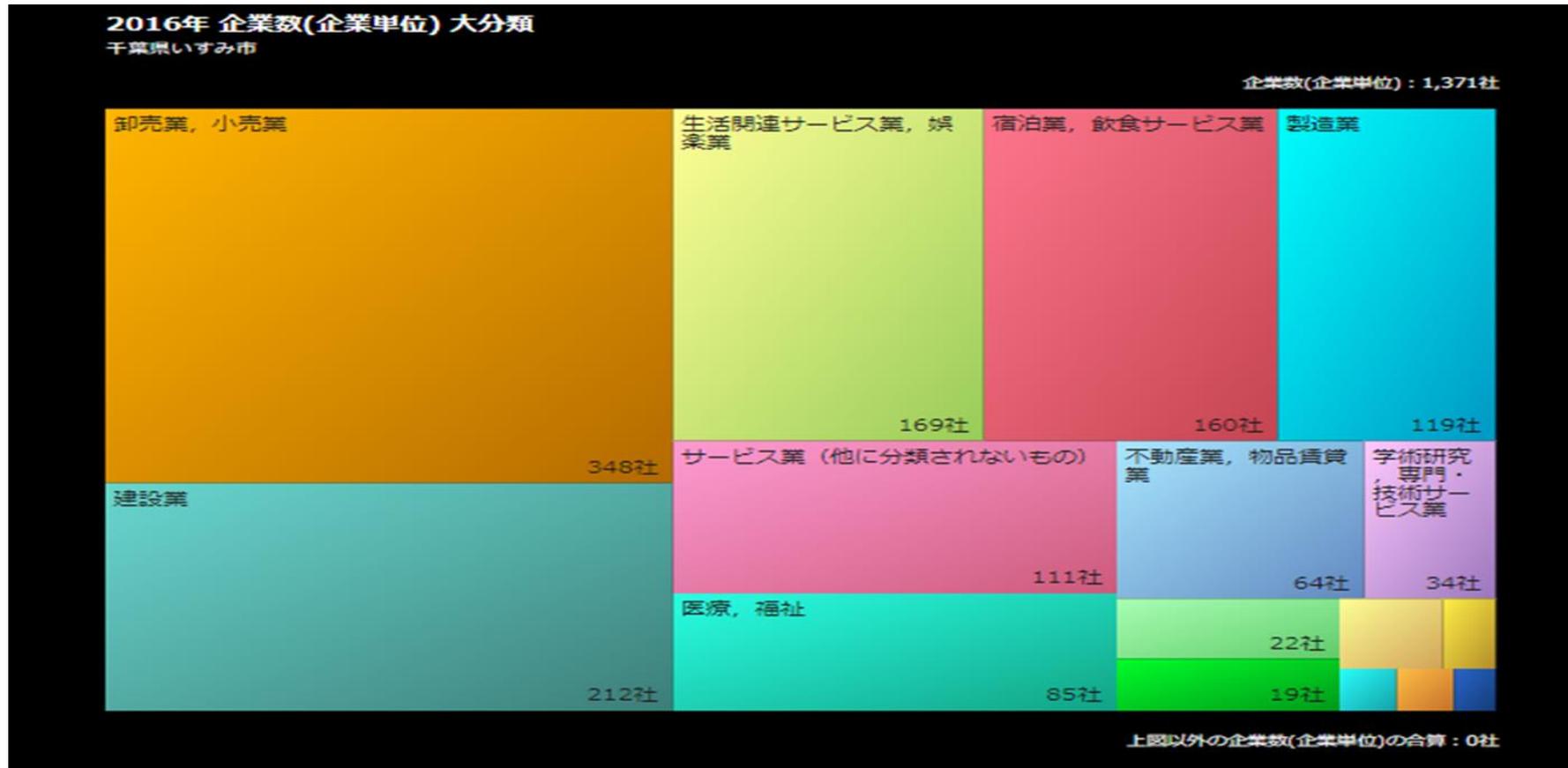


【出典】総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

【注記】凡例の数値は選択地域の数値を指す。

③産業大分類別に見た売上高（企業単位）の構成比

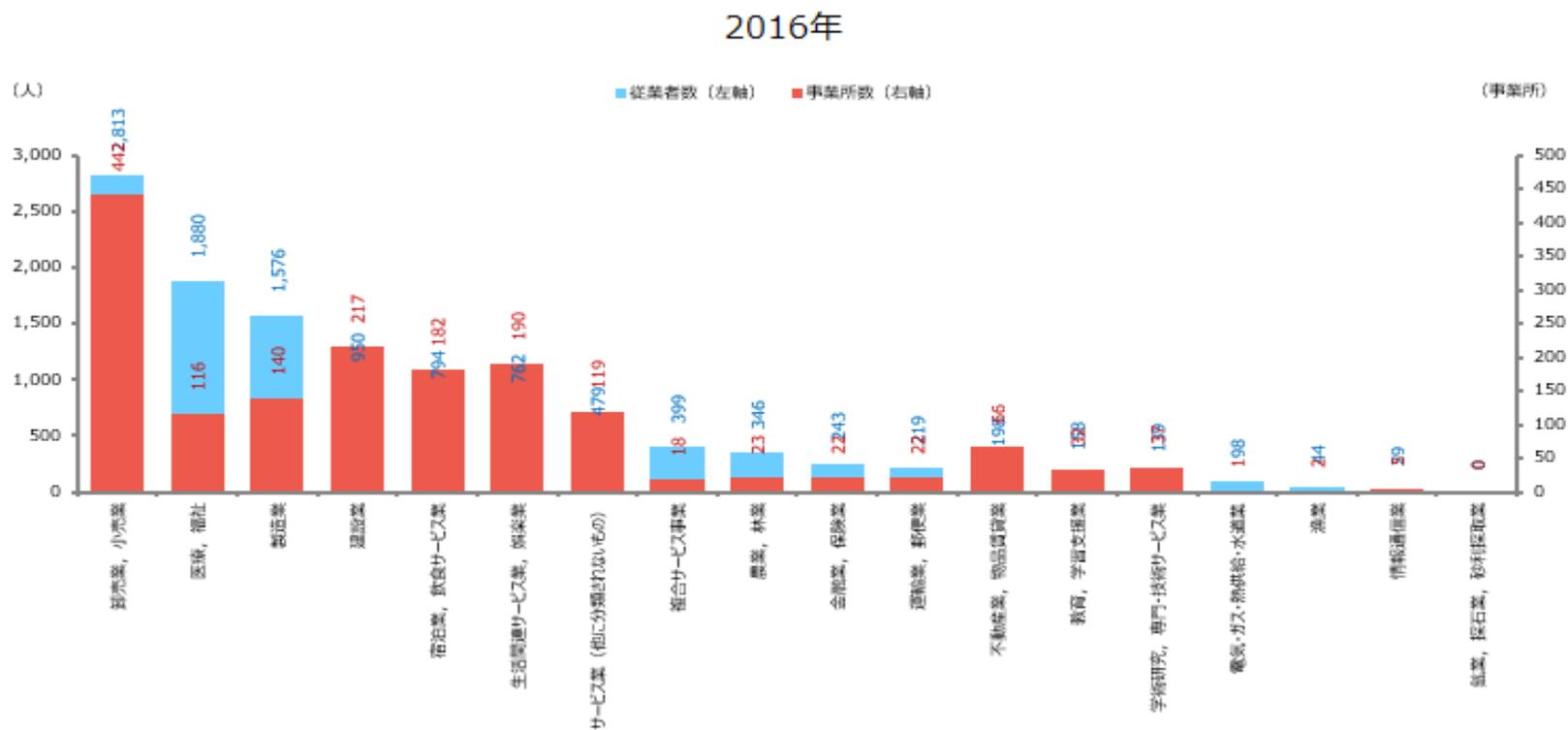
・いすみ市の全産業の分類を企業数（企業単位）大分類で見ると、卸売業、小売業が348社と最も多く、次いで建設業が212社、生活関連サービス業・娯楽業169社、宿泊業、飲食サービス業160社である。



出典：RESAS（地域経済分析システム）

④産業大分類別に見た従業者数（事業所単位）と事業所数

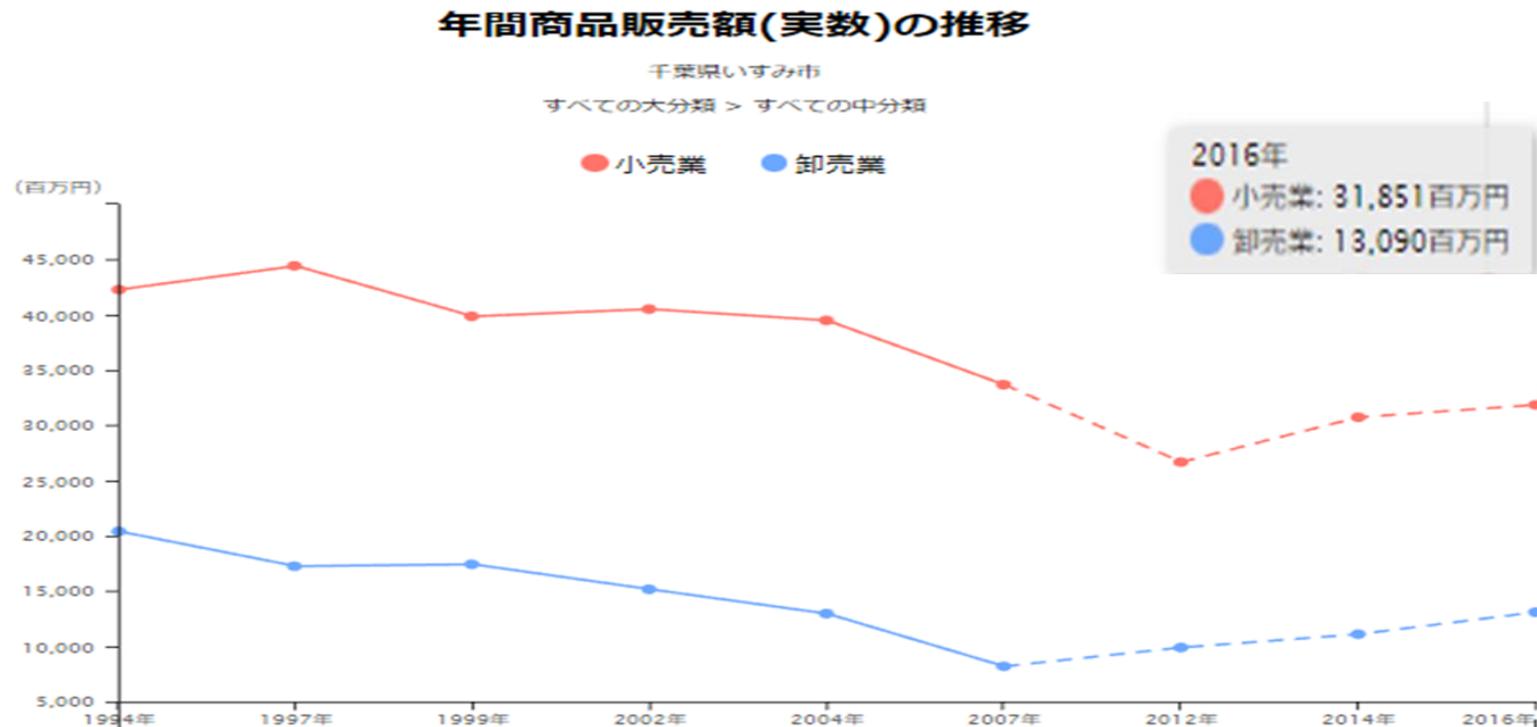
- ・産業大分類別の従業者数（事業所単位）および事業所数のグラフである。
- 事業所数では、卸売業・小売業が一番多く、次いで製造業、生活関連サービス業であるが、従業者数では、卸売業・小売業が一番多く、次いで医療・福祉、製造業となっている。
- 医療・福祉は、事業所あたりの従業員の数が多い特徴がみてとれる。一方で、卸売・小売業は、1事業所あたりの従業者数が少ない。



【出典】総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

⑤小売業・卸売業の年間商品販売額(実数)の推移

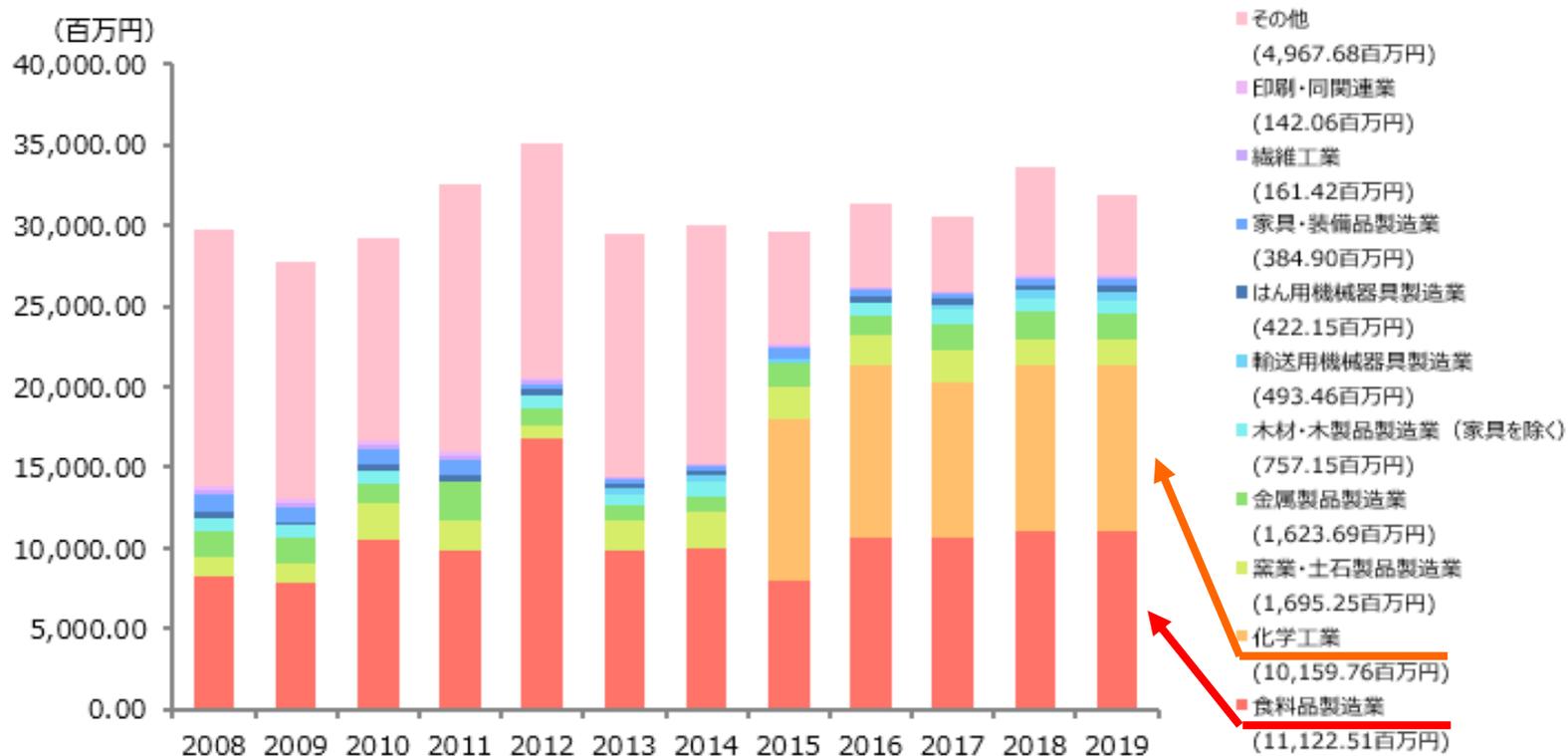
・いすみ市の小売業・卸売業の年間商品販売額の推移をみると、小売業は卸売業の2.4倍である。2016年では、小売業が31,851百万円であり、1994年から減少傾向であったが、2012年から増加している。また、卸売業は2016年に13,090百万円であり、1994年から減少傾向であったが、2007年から増加している。



出典：RESAS（地域経済分析システム）

⑥産業特性（製造業） / 産業別製造品出荷額等の変化

・いすみ市の産業中分類別の製造品出荷額等の推移をみると食料品製造業が一番多い。2015年以降は、化学工業の出荷額が出現しており、食料品製造業に追いつく勢いである。



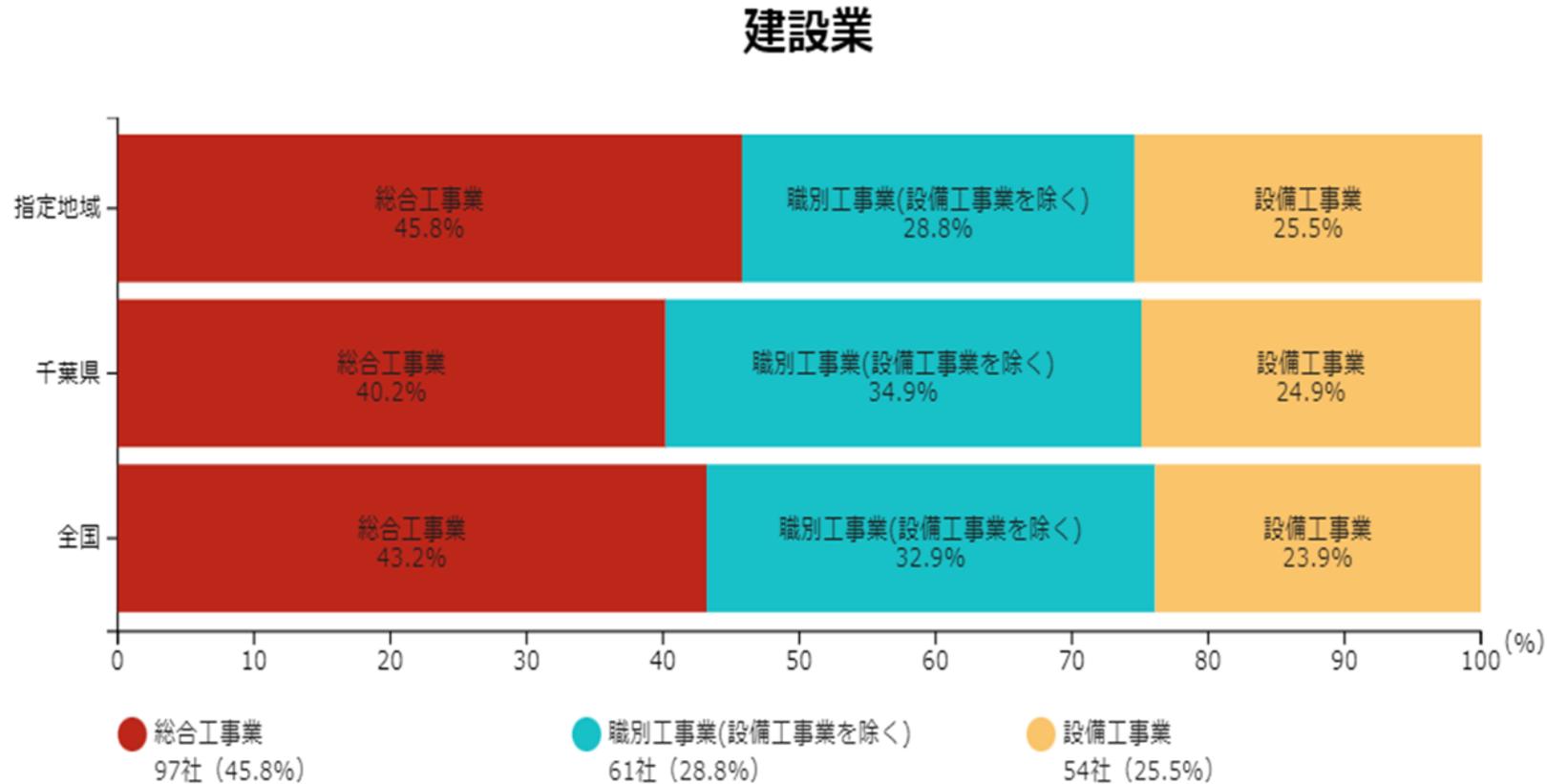
【出典】 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工、
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【注記】 凡例の数値は最新年の数値を指す。

【その他の留意点】 従業員数4人以上の事業所が対象。

⑦建設業の業種別構成

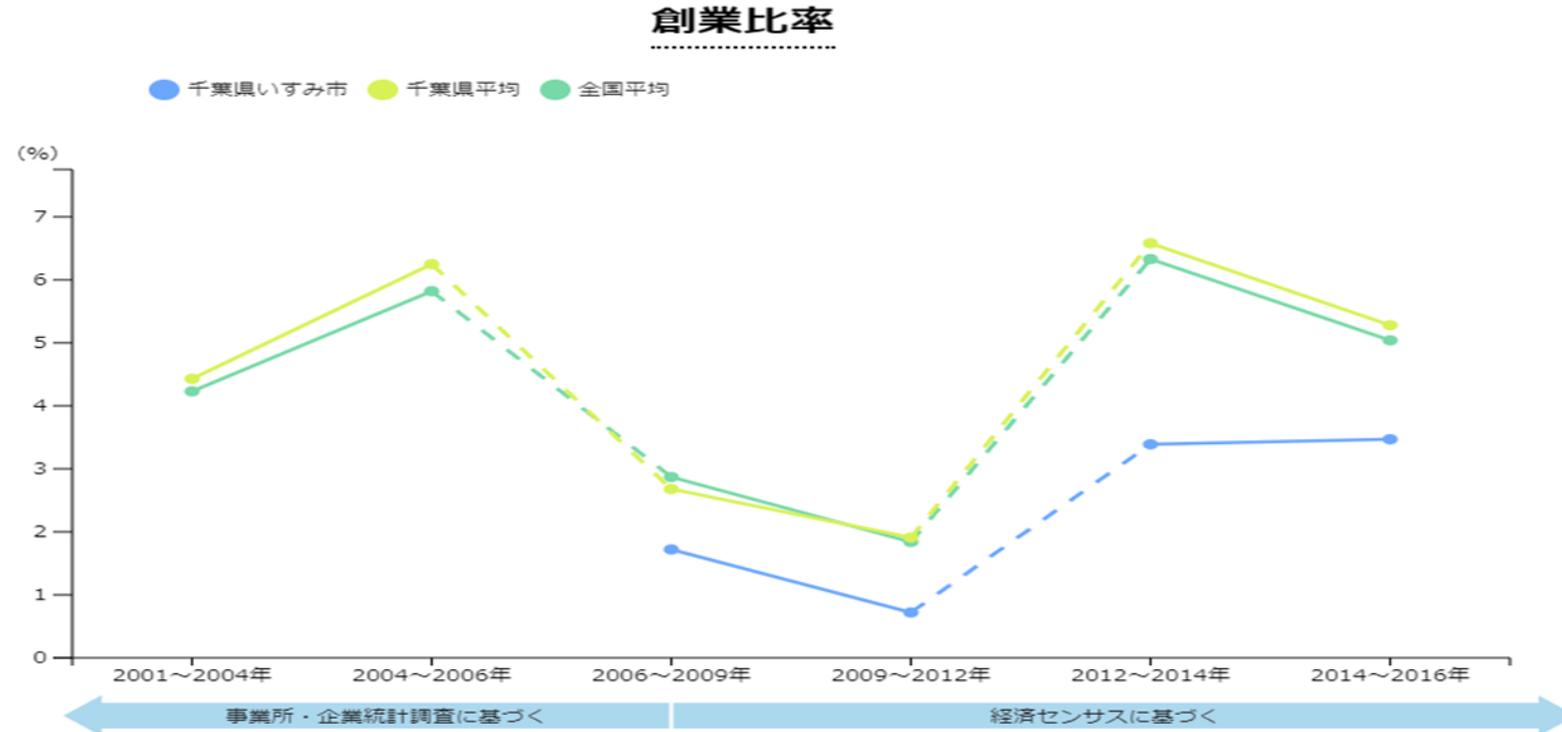
・いすみ市の建設業（15.5%）に占める業種別割合は、総合工事業（45.8%）が一番多く、次いで識別工事業（28.8%）、設備工事業（25.5%）である。千葉県と比較し、総合工事業の割合が高い。



出典：RESAS（地域経済分析システム）

⑧創業比率

・2006年～2009年は、創業比率が1.72%、2009年～2012年は0.72%、2012年～2014年は3.39%、2014年～2016年は3.47%であり、他地域と比較して同じような推移を示している。2016年創業比率の順位は都道府県内でいすみ市は38位である。（54市町村中）



【出典】

総務省「事業所・企業統計調査」、総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

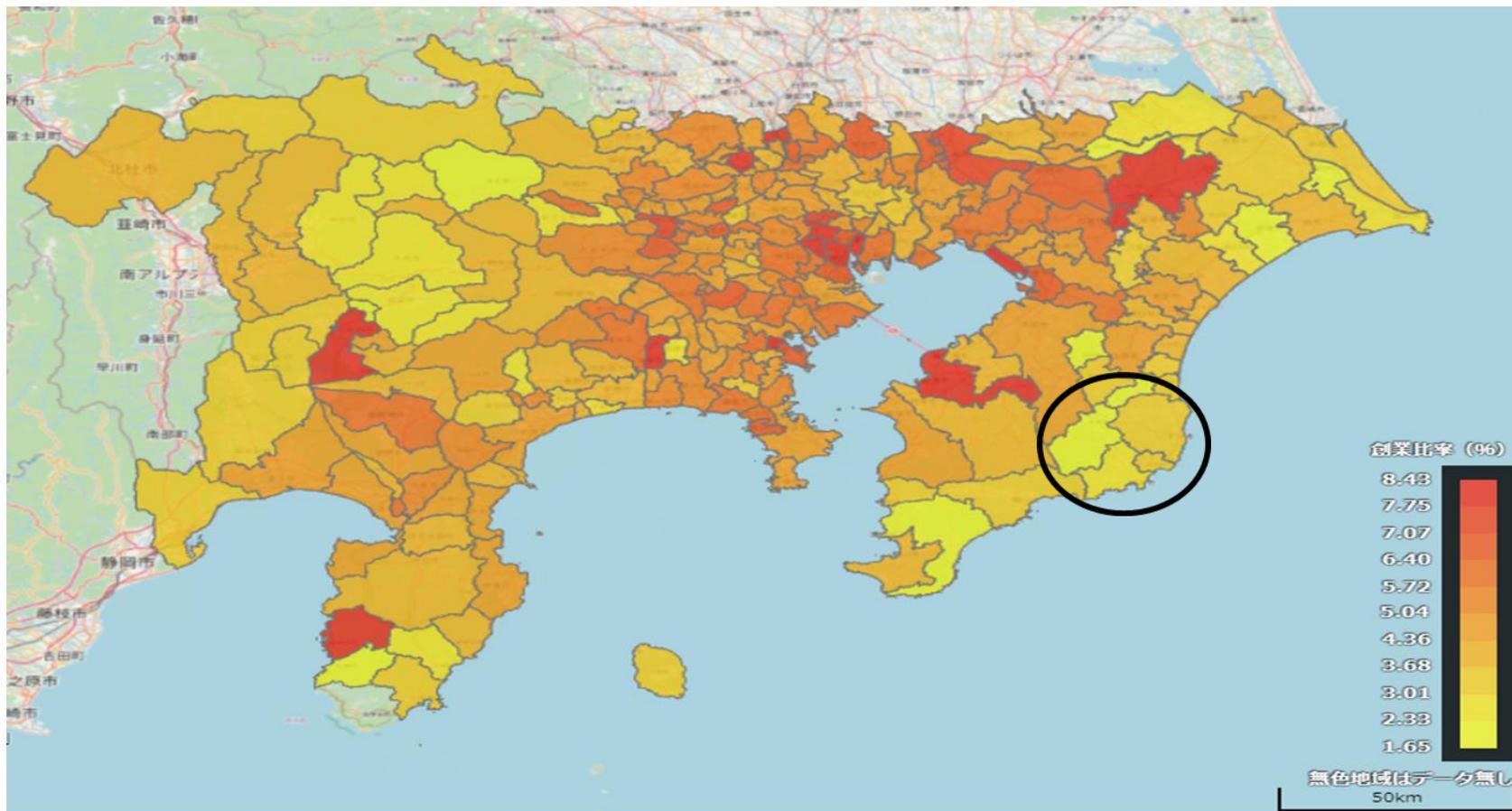
【注記】

「平成21年経済センサス-基礎調査」及び「平成24年経済センサス-活動調査」では、新設事業所の定義が異なるため、「2006-2009年」及び「2009-2012年」の創業比率は、前後の数字と単純に比較できない。

【その他の留意点】+

⑨創業比率の他地域との比較

- ・創業比率をヒートマップで表した図である。いすみ市は、首都圏周辺と比較して創業比率が低い。しかし、夷隅郡市の市町と比較すると創業比率が高い。



出典：RESAS（地域経済分析システム）

⑩地域経済循環マップ

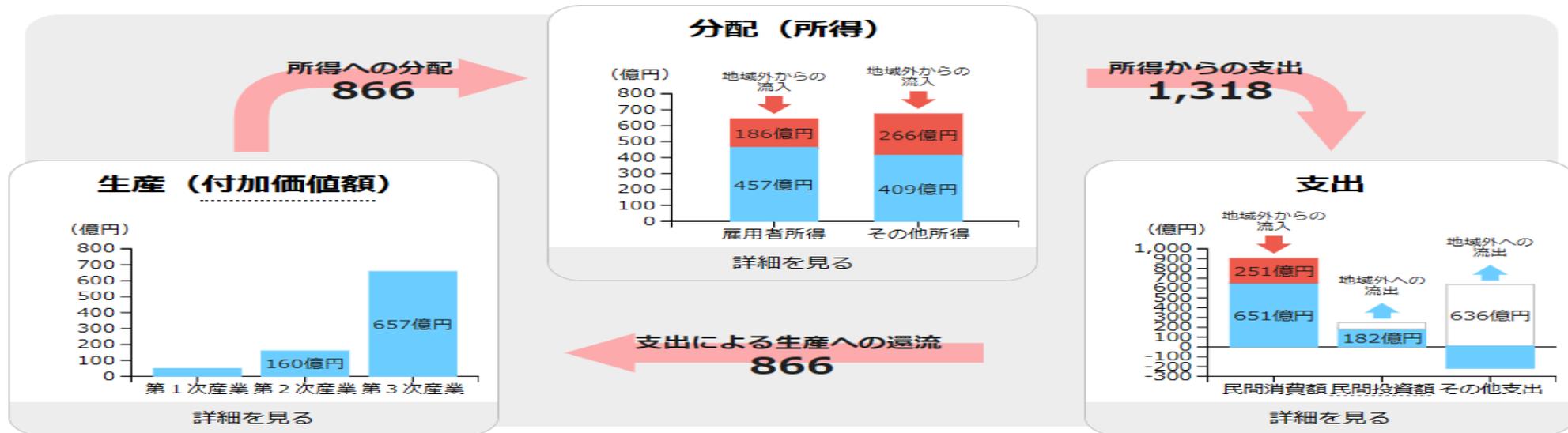
いすみ市の産業の中で大部分を占めるのは第三次産業であり、サービス業や不動産、卸・小売業が多くを占めている。所得の分配は、雇用者所得は、いすみ市外から通勤して所得を得ている人が約30%を占めており、その他所得（企業所得等）も共に地域外からの流入がある。一方、所得からの支出においては、1,318億円の所得からの支出のうち、青色で示した866億円の地域内の住民・企業等が支出した金額は、民間投資額、その他の支出において支出が地域外へ流出してしまっていることがわかる。

地域経済循環率は、地域経済の自立度を測る値であり、いすみ市は65.7%と値が低く全国1,719位中1,687位に位置している。他地域から流入する所得への依存度が高く地域の疲弊度が高まっている。

地域経済循環率
65.7%

地域経済循環図 2018年

指定地域：千葉県いすみ市



【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>